# 「自分が納得できる音のスピーカーを自分の手で作りました」

## 自由な発想で音楽的なスピーカーを目指すロマンチスト

ディアパソン：アレッサンドロ・スキアービ

聞き手◎角田郁雄

長らく輸入が途絶えていた1987年創業のイタリアのスピーカーメーカー、DIAPASON（ディアパソン）が、再び日本に登場することになった。その名前（DIAPASONは旋律や音叉の意味）のとおり、2本の音叉が向き合ったロゴマークが印象的な同社、その第一弾は2ウェイ・スピーカー、Astera（アステラ）という。美しい無垢のウッドの仕上がりが、いかにもイタリアらしさを醸し出している。

アレッサンドロ・スキアービ氏
Alessondro Schiavi

### 楽器作りの技術を生かしたこだわりのエンクロージャー

秋のハイエンドショウトウキョウで、同社CEOであるアレッサンドロ・スキアービ氏（以下AS氏）に、同社のスピーカー作りについて、話をうかがうことができた。

まず、私が関心をもったのは、かなり厚みのある板材をフロントバッフルからリアまで5層に貼り合わせた仕上げと複雑な面を組み合わせた造形的な外観。この辺りに、こだわりがありそうだ。

**「そのとおりで、キャビネットはMDF材に天然木を張るのではなく、無垢のウォルナット材を貼り合わせており、製作には3ヵ月費やしています。形状もダイヤモンドカットのように仕上げていますが、これで一切の共振を排除できるようにしているのです」**とAS氏。間近でみると、その高級家具のような丁重な仕上がりに、思わず感激してしまう。

内部に特別な吸音材を使用しているのか質問すると、

**「まったく無害なDacron（ダクロン）という吸音材を使用し、不要な音を吸音しています」**とのこと。では、搭載するユニットはというと**「高域はシルクドームトウィーター（29㎜）で、低域はネクステルコーティングしたペーパーコーン。ともにノルウェーのシアーズ社に特注したもの」**だそうだ。

専用スタンドも凝った作りで、スチール板の間にラバーを挟み、異種素材の組み合わせで共振を排除。球状のスパイクでスピーカーを3点支持し、地震等で転倒しないように、補助スパイクも装備している。脚部も共振を抑える構造で、美しいウォルナット材が取り付けられ、堅牢で、デザインもスピーカーとマッチする。というか、スタンドはあえて付属し、音の一貫性を主張する。

### リアルな音楽を放つ極めて楽器に近い音作り

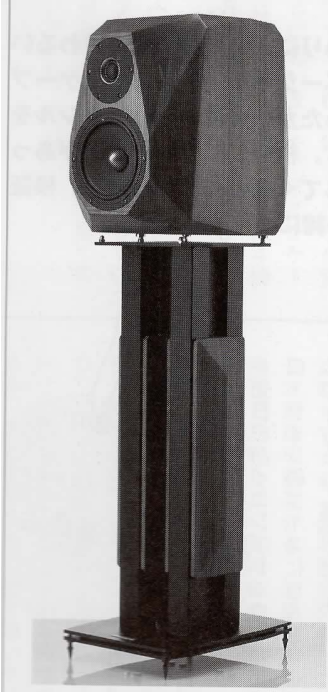
なぜ、こうしたスピーカーを作ろうと思ったのだろうか。

**「きっかけは、当時のスタジオ用スピーカーに満足できず、自分で納得できるスピーカーを作りたいという強い気持ちが原点です。そのために開発では厳密な測定を行うのはもちろんですが、よりリアルな音楽を放つ、きわめて楽器に近い音づくりを基本としています。製作のためにイタリアのバイオリンメーカーとコラボもしています」**という話が聴けた。現在はヨーロッパ、とりわけイタリア、ドイツ、オランダなどで、高い評価を受けているそうだ。

オーディオショウ会場で鳴っていた、LPやCDでの、ストレートで、きわめて反応が良く、スカッと抜けるような空間を作るサウンドが印象的だった。特に厚みのある中域が魅力的で、ボーカル、ギター、ストリングスの響きは格別。また、広い会場にあって、ロックやジャズの再生でも十分な低音が再現できていたことにも驚いた。この作りの良さと音に、一度触れる価値は十分にある。

His Work

スキアービ氏の作品



**ディアパソン Astera**

複雑なカットが造形美を生む、美しいエンクロージャーがこだわりの逸品。この多面体の部分が、理想的な音の放射にきわめて有効であるという。また、ウォルナットを巧みにかつ高精度につなぎ合わせて作られ、高剛性と無駄な鳴きを抑える。スタンドは専用品で付属。デザインのみならず、音作りの点でも一体であることを主張している。
1,036,350円〈ペア〉
■問：ヨシノトレーディング㈱
TEL.050-3375-3975